

## 妙義山山行報告書

報告者：M

日時：12月7日（水）快晴

メンバー：1 + 他3名

コース：妙義山神社・・・50分大の字・・・20分辻・・・50分第1見晴らし・・・30分第2見晴らし・・・10分タルキ沢分岐・・・10分第2見晴らし・・・20分第1見晴らし・・・10分妙義神社

当日は快晴。朝が相当冷え込むとの予報で（1度）、何枚もの厚着で防寒対策をとった。朝、3時30分起床。4時50分出発  
まだまだ暗い。朝日はなかなか出てこない。  
圏央道をスイスイと進む。目的の山、妙義山（金洞山）が見えてきた  
ゴツゴツとした山容が非常に印象的。7時30分着 気温は4度

今回も前回と同じ表妙義に登る。裏妙義の石門巡りは次回に回すこととした。  
今回は2回目のチャレンジ。紅葉や紫色の実を付けた紫式部は終わっているかなと思った・・・。  
道の駅から妙義山神社をスタート。いきなりの急登で皆さん呼吸が荒くなり、登るごとにだんだん暑くなり、上着や帽子も一枚一枚と脱いでいった。

暑い。

ゆっくりと登って行くと、以前はもっとすごく怖く感じた鎖だったが、難なくクリアした。  
鎖を上り岩山をヨイショと登るとあったー。

白雲山中腹にあって、中山道を通る旅人の目印であった「大」の文字が・・・。  
そこで、写真を撮ったり、覗いたり、みかんを食べたりして景色を見入った。  
素晴らしい。癒される。

下界の落葉した山並みの木々もなかなかいい。でも紅葉はもっと、素晴らしかったらうなあ。  
それから、辻に出て、白雲山には行かず、下る。ふかふかの落ち葉に足をとられながら滑り歩き。  
雨後の道で滑ったことはあるが、沢山の落ち葉で滑ったことはないなあ。  
スススーって、しりもち・・・。このままフカフカな落ち葉の中にいたい心境だった。

今回は第1見晴らし第2見晴らしを経て、本読みの僧まで目的地とした。  
途中、目にも鮮やかな紅葉が数本残っていた。サングラスで見るとよけい鮮やか。気持ち華やいだ。

前回は相馬岳が目的地だった。私だけタルキ沢のコルで断念した。どうしても体が動かなくなり、一人岩場で寝かされた屈辱の思い出・・・。

前回分からなかったタルキ沢を確認。やっぱり見落とす所だった。標識が目立たない。  
私達はそれから引き返し、妙義神社にゆっくり落ち葉を踏みながら戻って行った。  
妙義神社には枝垂れサクラが沢山あり、咲いた枝垂れサクラを想像した。  
綺麗だろうなあ～  
妙義さくらの里にもサクラがあるそうで、サクラの時期には、是非そこも訪れてみたいと思った。

下山後は、もみじの湯で脚の疲れをとる。温泉はとても安く¥500  
近くの方達も来ていてお勧めの温泉だった。食事は地元産マイタケのてんぷら入りランチ。すごく美味しかった

初冬の妙義山は、人も少なく静かで落ち葉に癒されながらの山行だった。



滑る落ち葉



金洞山



紅葉



落ち葉